

御礼

梅花の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

日頃は大変お世話になっております。

2020年2月22日の【(医)在和会 立川在宅ケアクリニック 20周年記念感謝会】に際し、ご臨席並びにご祝辞を賜りまして、誠にありがとうございました。

新型コロナウイルス騒ぎの中、開催を執行するか熟慮しましたが、日本の超高齢多死の問題はこの騒ぎより数十倍深刻な状態であるという事実をお伝えするためにも開催を決めました。今後増え続ける旅立つ人々を如何に穏やかに、静かに、希望される場所で着陸させてあげるために必要なことは地域看取り、地域緩和ケアの普及です。2018年の日本の総死亡数は136万9,000人、一日3,726人が亡くなっています。東京都の総死亡数は11万9,253人、一日336.7人が亡くなっています。立川市の総死亡数は1,706人、一日4.67人が亡くなっています。団塊世代が75歳を迎える2025年から急カーブで増え170万人/年が増える予測です。国はこの事態を乗り切るべく「地域包括ケアシステム」の市町村への普及で乗り切りたいと構築を進めていますが国民全体への呼びかけ、啓発、覚悟が足りません。それに加えて65歳以上の独居世帯が増え続けます。(2020年東京都87万8629世帯、立川市1万3017世帯)このままでは、10年後からあちこちで孤立死、検視事例が増え続けます。日本は若く、活力のある、成長が見込まれる国ではなくなりました、成熟した、大人の国、老人が多い国であることを認識し、これから起こることを十分覚悟して生きていくことが望めます。立川で私に出来ることを残された時間内で精いっぱい努めます。今後ともご支援、ご協力よろしくお願い致します。

覚悟

人は人生を生きて死を迎えます

死の理由は選べませんが、考えること、伝えておくことはできます

延命医療は受けたくない、緩和ケアは受けたい、ここで最期を迎えたい…

日本は超高齢化多死社会に突入、増え続ける老老世帯、独居世帯

病院は看取らない、施設は満杯、地域に居るしかない時代

痛い・辛い・苦しいことを楽にする緩和ケア

最期まで自宅で見守る在宅医療

今求められているのは「地域緩和ケア・地域看取り」の普及

自宅で看取るには「本人の覚悟」「家族の覚悟」「医師の覚悟」が必要

地域で看取るには「市民の覚悟」「市町村の覚悟」「医師会の覚悟」が必要

更に踏み込むと「社会の覚悟」が必要な時期

2020年2月25日

 医療法人社団 在和会
立川在宅ケアクリニック

理事長

井尾和雄

